

1 福山市の人口減少対策について

Q 本格的な人口減少社会へ突入し始めた本市にとって、人口減少対策について問い質しました。特に、生産年齢人口の移住策、移住促進へ繋げるための観光施策、LADY WORK CAFEの在り方や活用方法、福山市内の大学卒業生の地元定着率の向上について等、問い質しました。

A (移住策について) 積極的な情報発信などにより、新たなアプローチによる施策を検討し、移住促進に努めていく。

(観光施策について) 今後も先駆的な実証実験に協力し、観光施策へICT技術を活用することにより、観光客の満足度向上や本市の認知度向上に繋げたい。

(LADY WORK CAFEについて) 今後、地元企業等との連携イベントや「出張カフェ」などの取組において、更なる会員数の拡大やリピーターの確保を図っていく。

(地元定着率の向上について) 市内企業の多くが「人材の確保」で悩んでいるという状況を把握している。地元定着率を高める取組は必要と考えており、特に市外出身の学生が多いことから、地元企業を知ってもらう取組に力を入れる。

2 英語教育の在り方について

Q これから2020年の小学校での新学習指導要領改訂を踏まえ、外国語活動が小3から、英語が新たに小5から教科化されることを受け、来年からの英語教育移行期間も含め、本市としての英語教育の在り方について問い質しました。また、中学生の職場体験学習である「チャレンジウィークふくやま」の在り方について、本市の産業の特徴を鑑みて、子ども達が第二産業に対し興味関心を高められるように、チャレンジウィークの受け入れ先として、第二産業の事業所を更に確保していくことの重要性について問い質しました。

A 小学校における英語教育については、相手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを目指している。引き続き円滑な実施に向けた教職員の体制づくりと研修の充実にも努めていく。チャレンジウィークふくやまについては、本市は多種多様な製造業が集積するものづくりのまちとして発展してきたが、第二産業で職場体験をする生徒が全体の1割未満であり、本市の特色を活かしきれていない。福山商工会議所等と連携し、生徒が体験できる新たな事業所の受け入れ拡大に向けて取り組む。

3 医療的ケア児の支援について

Q 人工呼吸器やたんの吸引、胃ろうによる栄養の注入などの生活支援が日常的に必要な医療的ケア児が、ここ数年、増加している。その様な医療的ケアの必要な子ども達のための教育行政や保育行政の支援の在り方について問い質しました。

A 教育行政については、就学の機会を拡充し、より安全な環境での学校生活及び教育活動を保障するために、医療的ケアを行う看護師資格を持った看護介助員を配置している。今後も保護者から医療的ケアの要望があった場合、受け入れを基本に、保護者や医療機関等と連携し、実態に応じて看護介助員を配置していく。

保育行政については、指摘の通り、支援が必要な医療的ケア児の増加や保護者の多様なニーズがあることについて把握している。平成30年度末までに医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう、保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係者による協議の場を設置し、これまで以上に関係機関との連携を行う。今後、受け入れの拡充に向けて検討していく。

中国新聞に、私がさせていただいた議会での質問の1つを取り上げていただきました。このように、メディアに取り上げていただけると、行政支援を必要とされている方々、本当に困っている方々への後押しになり、大変有り難く感じています。



録画中継 **ふくやま市議会を見てみよう**
インターネット議会中継
インターネットが利用できる環境であれば、公開中の映像をいつでもご覧いただけますのでぜひご活用ください。ライブ中継及び録画放送を行っています。
福山市議会 映像配信 検索

上記の議会での質問の映像記録をきだこうへい個人のホームページに公開しております。質問の様子の手紙が公開されておりますので、詳しくはそちらをぜひご覧ください。

市政トピック①

発達障害児診察半年待ち ~解消へ向けて~

枝広福山市長と湯崎広島県知事のトップ会談の中で、県立福山若草園で発達障害児が診察を受けるまでに、予約から診察まで「半年~8ヶ月待ち」の状態の課題解消に向けた話し合いが行われました。

県は、来年度新たな予算を組み、専門医の育成や、福山市が運営することも発達支援センターを拠点医療機関とし、かかりつけ医とのネットワークづくりを始めることとなります。

これまでずっと一貫して、議会本会議や予算委員会、決算委員会にて、市へ提言・要望を続けてきた、発達障害児の医療機関受診の待ち期間の短縮化への課題解決に向けて、**来年度から少しずつ**ですが前進していきそうで、嬉しく感じています。

発達障害児の予約から診察までの半年~8ヶ月という長い待ち期間は、今、目の前で困っている保護者や子ども達にとっては、**あまりにも長く、課題や問題が深刻化したり、長期化してしまう懸念**があります。これからも引き続き、支援強化の発展を心から願っていますし、また少しずつでもそうなるよう引き続き提案・要望を続けてまいります。

発達障害児診察半年待ち 県、専門医を育成へ
福山市長と湯崎県知事のトップ会談の中で、県立福山若草園で発達障害児が診察を受けるまでに、予約から診察まで「半年~8ヶ月待ち」の状態の課題解消に向けた話し合いが行われました。県は、来年度新たな予算を組み、専門医の育成や、福山市が運営することも発達支援センターを拠点医療機関とし、かかりつけ医とのネットワークづくりを始めることとなります。

中国新聞 (1月31日)

市政トピック②

放課後児童クラブ 福山市内14箇所追加決定

来年度4月から新たに、福山市内14箇所の小学校の放課後児童クラブで、現在の小学3年生までの受け入れから、**小学6年生までの受け入れへ拡充されることになりました。**

今回の14箇所を加え、全74箇所の内30箇所、6年生までの受け入れ拡充となります。

市は、**2020年4月から**市内の全ての放課後児童クラブで、6年生まで受け入れを拡充する計画です。

これからの課題としては、放課後児童クラブの支援員の人員確保と、支援の質の向上だと感じています。

社会情勢の変化により、近年、核家族化や共働き世帯、働くお母さん方が大幅に増えてきました。

市政トピック③

中学校完全給食について

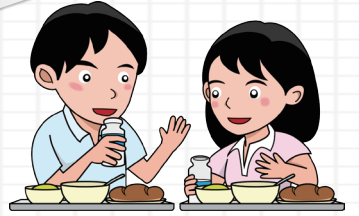
ずっと実現をしたかった市内全ての中学校での完全給食実施に向け、今後のスケジュールが遂に市から示されました。

- 2018年
4月 大門
9月 済美、中央、芦田、城西、神辺東
- 2019年
4月 鞆の浦学園、城東、鳳、誠之
9月 向丘、東朋、神辺西
- 2020年
4月 城北、幸千、培遠、福山
9月 城南、駅家南、神辺

上記のスケジュールで、それぞれの中学校で**完全給食の実施**がスタートされ、全ての中学校で実施となる予定です。

全学年放課後ク14カ所追加
福山市が対象学年を拡大する放課後児童クラブ14カ所追加決定。市内の放課後児童クラブ14カ所、6年生までの受け入れを拡充する。対象となるのは、松永(148)、新羅(135)、駅家西(78)、百舌谷(67)、金江(43)、松江(40)、新市(37)、明王(36)、藤江(35)、長浜(33)、野野(29)、野々浜(27)、竹鼻(26)、津之郷(24)の14カ所。対象学年は、1、2年生から3年生までを拡充する。また、14カ所は、松永、新羅、駅家西、百舌谷、金江、松江、新市、明王、藤江、野野、野々浜、津之郷の14カ所。対象学年は、1、2年生から3年生までを拡充する。また、14カ所は、松永、新羅、駅家西、百舌谷、金江、松江、新市、明王、藤江、野野、野々浜、津之郷の14カ所。対象学年は、1、2年生から3年生までを拡充する。

中国新聞 (1月9日)



中学生は、心身ともに大きく成長する時期で、この時期に栄養価の高い学校給食が実施されることは、子ども達の成長にとって、とても大きな意義があり、心から嬉しく感じています。

また共働き率、子育て世代の女性の就業率が近年大幅に伸び、子育て世代の働き方そのものが大きく変容してきました。

その中で、**より子育てしやすい環境整備のためにも**、中学校で完全給食が実施されることは、大きな意義があると感じています。